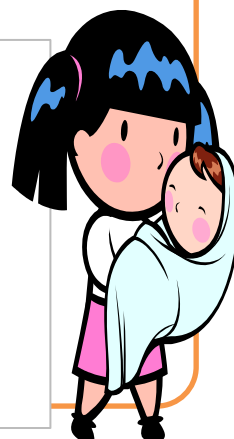


今、助産師として何をすべきか

- 1、阪神淡路大震災から15年、これを機に日本助産師会は「助産所における災害時対策マニュアル」を作成した。看護学でも災害看護が取り上げられて数年たつが、今回の東日本大震災で、子供・女性支援の視点で支援活動はどのようなであったか、「現地支援活動を通しての学び報告」から、今後のあり方を検討する。
- 2、22年度ヒヤリ・ハット事例集が発行された。分析につかわれた「SHELモデル」について学び、今後の事例報告に活用していただきたい



1、現地支援活動から学んだこと —災害時の対策マニュアルを見直す—

講師：聖マリア学院大学 准教授 大町 福美

2、ヒヤリ・ハット事例とSHEL分析

講師：医療安全管理者研修修了看護教員 北崎 美咲枝

日時：平成23年7月23日(土)
13時30～16:30

会場：助産師会館

申し込み：地区理事から安全対策委員長まで

締め切り：7月19日(木)

参加費：無料

資料代：一部負担：日本助産師会発行「災害時の対策マニュアル」
お持ちの方はご持参ください

無料：日本助産師会発行「ヒヤリ・ハット事例集」
その他母乳育児相談ガイダンスなど



勤務部会・助産所部会・保健指導部会・電話相談員・母乳育児相談室の方々、多数の参加お待ちしております

安全対策委員会 委員長 大牟田 智子
教育委員長 西本 サチ子

文責：菱川

